医療界の現在進行形を読む／ MMPG 医業経営ジャーナル

MMPG 医業経営 Journal

2023 8 Vol.266

発行　メディカル・マネジメント・プランニング・グループ　TEL03-6721-9763(代)　FAX03-6721-9764　https://www.mmpg.gr.jp

【キーワード】オンライン診療

普及が遅れるオンライン診療 その現状と今後の可能性

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて注目を集めたオンライン診療。要件緩和や算定できる医学管理料の拡大などが進められてきたにもかかわらず、諸外国と比べてその普及はかなり遅れていると言われています。国民の間での認知度や期待が高まりつつあるオンライン診療の現状と、今後の可能性を考えます。

届出数は7500超 オンラインメインも登場

普及が遅れていると言われるオンライン診療ですが、届出医療機関数は年々増加しており、2023年4月1日時点で7509施設にまで増えています(厚生労働省保険局医療課調べ)。

また「令和4年度入院・外来医療等における実態調査」によると、2022年10月、初診料は全体の2.4%、再診料・外来診療料は全体の9.3%の施設で15回を超える算定実績がありました。算定する医学管理料については、特定疾患療養管理料が最多でしたが、回答した148施設のうち117施設は0件であったのに対し、695件算定していた施設があるなど、算定実績には大きな差があることがわかりました。

患者の所在が医療機関と異なる市町村、または特別区という割合が97.5%を超える医療機関は239施設(13.7%)。また、全診療件数のうち、オンライン診療が1割を超える医療機関は112施設(6.9%)で、5割を超える医療機関は7施設(0.4%)となっています(NDBデータ)。

これらの数字から、オンライン診療をメインとする医療機関が登場してきたことがうかがえます。その背景には、2022年度診療報酬改定でのオンライン診療の初診料(251点)・再診料(73点)・外来診療料(73点)の新設や医学管理料の拡充、「オンライン診療料の算定数を1割以下にする」「医療機関と患家との距離が概ね30分以内」などの廃止があると考えられます。

初診の最多はCOVID-19 不眠症初診に疑問の声

オンライン診療はどのような疾患で利用されているのでしょうか。初診料・再診料・外来診療料いずれも最も多い傷病名はCOVID-19です(2022年5月診療分)。初診料に関して2位以下は、急性上気道炎、急性気管支炎、アレルギー性鼻炎、急性咽頭炎と続きます。一方、再診料・外来診療料の2位以下はアレルギー性鼻炎、高血圧症、急性上気道炎、気管支喘息という順番になっています。

なお、オンライン診療メーンと考えられる対面診療の割合が5割未満の医療機関でも初診はCOVID-19が最多で、咽頭炎、不眠症、廃用症候群、神経痛という順に並んでいます。一方、再診料・外来診療料については不眠症がトップで、次いでアレルギー性鼻炎、高血圧症、気管支喘息、高コレステロール血症となっています(**図表**)。

こうした結果を受けて、中央社会保険医療協議会(中医協)の「入院・外来医療等の調査・評価分科会」では、オンライン診療の初診では向精神薬の処方はできないため、「不眠症の初診でどんな薬剤が処方されているのか」という疑問が出され、今後、その実態を精査すべきとの指摘がなされています。

併せて同分科会では、へき地や在宅医療でも活用されつつある、患者のそばに看護師等がいる場合のオンライン診療(D to P with N)の推進を求める声も上がっています。こうした意見を踏まえ、2024年度改定では不眠症に関する不適切事例やD to P with Nの評価に関する議論が進められると考えられます。

キーワード◉オンライン診療

検査処置以外には それほど不満はない

令和４年度入院・外来医療等における実態調査によると、オンライン診療の届出を行っていない医療機関のうち、82.3%が今後も届出を行う意向なしと回答しています。その理由としては「対面診療の方がすぐれている」(72.3%)、「患者のニーズがない・少ない」(52.9%)、「オンライン診療のメリットが手間やコストに見合わない」(43.0%)といった意見が挙がっています。

それでは、オンライン診療を受ける側の患者さんはどのように考えているのでしょうか。

同調査によると、患者さんがオンライン診療を受けた理由としては、「感染症の予防」(35.2%)、「仕事や家庭の事情で通院する時間がない」(32.4%)、「対面診療より気軽に受診できる」(25.4%) などが上位を占めています。

実際にオンライン診療を受診した感想としては、「対面診療であればすぐに受けられる検査や処置が受けられないと感じた」(38.4%)、「対面診療と比べて十分な診察を受けられないと感じた」(20.5%)、「対面診療と比べて自分の症状や異常の部位等を説明しにくいと感じた」(15.1%)となっていました。

検査処置に関してはオンライン診療では難しいため、やはり不満の声はあるようですが、それらを除けば、概ね対面診療と同等の診療を受けられたとの感想を持っているようです。また、「様々な感染症のリスクを心配する必要がなかった」(94.5%)、「対面診療と比べて待ち時間が減った」(82.2%) という好意的な意見もありました。

＊

オンライン診療は当初、「外来」「入院」「在宅」に次ぐ第４の医療として期待されていましたが、思ったほど普及していないというのが実情です。その一因としては、診療報酬等のインセンティブがあまりないために消極的な医療機関が多いこともあります。ただし、今後の医療ニーズの中心となる慢性疾患の管理や、外来通院が難しい高齢患者の診療などには非常に有用なツールになる可能性を秘めています。医療資源に限りがあるなか、各分野の専門医を各地域に配置するというのは現実的ではなく、医療提供体制の整備という面からもその利活用は重要です。

実際、医療DX推進本部では、オンライン診療を新たな医療提供の方法としてその拡大の必要性が指摘されています。政策的な後押しも進められるといくことでしょう。

「ニーズが増えてから」だと後手に回らざるを得なくなります。診療報酬改定の動向にも留意しながら、今から準備を進めておく必要があるのではないでしょうか。

図表　オンライン診療に係る傷病名(対面医療の割合５割未満)

No.	初診料に係る傷病名	令和4年度 5月診療月 回数	構成比%
計	情報通信機器を用いた初診の算定回数	807	100.0%
1	ＣＯＶＩＤ－１９	306	37.9%
2	咽頭炎	268	33.2%
3	不眠症	165	20.4%
4	廃用症候群	134	16.6%
5	神経痛	111	13.8%
6	アレルギー性鼻炎	46	5.7%
7	腰痛症	36	4.5%
8	喘息性気管支炎	32	4.0%
9	頚肩腕症候群	32	4.0%
10	急性上気道炎	28	3.5%
11	湿疹	15	1.9%
12	気管支喘息	15	1.9%
13	皮脂欠乏症	15	1.9%
14	睡眠時無呼吸症候群	15	1.9%
15	胃炎	12	1.5%
16	便秘症	10	1.2%
17	急性胃腸炎	8	1.0%
18	虫刺性皮膚炎	7	0.9%
19	肩関節炎	6	0.7%
20	皮膚そう痒症	6	0.7%
21	浮腫	5	0.6%
22	慢性便秘	5	0.6%
23	咽頭喉頭炎	5	0.6%
24	更年期症候群	5	0.6%
25	変形性膝関節症	4	0.5%

No.	再診料・外来診療料に係る傷病名	令和４年度 5月診療月 回数	構成比%
計	情報通信機器を用いた再診料・外来診療料の算定回数	973	100.0%
1	不眠症	386	39.7%
2	アレルギー性鼻炎	296	30.4%
3	高血圧症	239	24.6%
4	気管支喘息	229	23.5%
5	高コレステロール血症	184	18.9%
6	急性胃炎	156	16.0%
7	変形性腰椎症	149	15.3%
8	ＣＯＶＩＤ－１９	143	14.7%
9	２型糖尿病	139	14.3%
10	便秘症	135	13.9%
11	慢性胃炎	133	13.7%
12	頚肩腕症候群	123	12.6%
13	糖尿病	115	11.8%
14	逆流性食道炎	112	11.5%
15	胃炎	101	10.4%
16	アトピー性皮膚炎	90	9.2%
17	高脂血症	87	8.9%
18	アレルギー性結膜炎	86	8.8%
19	変形性膝関節症	83	8.5%
20	浮腫	83	8.5%
21	神経症	79	8.1%
22	低酸素血症	77	7.9%
23	皮脂欠乏症	70	7.2%
24	慢性心不全	65	6.7%
25	急性上気道炎	60	6.2%

出典：NDBデータ（令和４年５月診療分）

MMPG 医業経営 Journal
株式会社ユアーズブレーン
〒730-0042広島県広島市中区国泰寺町1丁目3－29　MRRデルタビル3階
TEL：082-243-7331　FAX：082-249-7070